

報徳仕法とは、二宮尊徳の教えにもとづく農村のたて直しのことをいいます。江戸時代のおわり、ききんによって荒れた田畑をたて直し、農民たちが希望ある生活を送られることをもめたものです。

そしてその後もその考え方が受けつがれて現在までつながってきているのです。

ただし、尊徳はこの教えを行うには、知識として得るだけでなく、自ら進んで行うことが大切であると伝えています。

二宮尊徳の教え

報徳仕法は尊徳の教えを行うことを目的とします。

尊徳の一番弟子富田高慶は、その教えを次のように理解し、『報徳論』にまとめました。

まず、その根本を「至誠」とし、実践する上で「勤労」「分度」「推譲」を行うこととしました。「積小為大」「一元融合」といった教えがあります。

「至誠」

至誠とは「まごころ（まっすぐで思いやりのある心）」です。尊徳の仕法や考え方そして生き方の中心となるものです。この「至誠」が尊徳の教えのすべての土台になっています。



至誠額 二宮尊親書  
(福島県立相馬高等学校所蔵)  
尊徳の孫二宮尊親が書いた「至誠」

報徳とは……

尊徳の説く「報徳」とは、過去・現在・未来を貫く「天・地・人の徳」に報いることです。人間主体の勤労の徳と万物を育む天地の徳とが合うことによってはじめて人間は生存することができることから、その徳に感謝し、報いる気持ちをもって生きなければならぬとします。

「勤労」

人間にとって働くことは大切なことです。熱心に働けば、人間は生きていくために必要なものをいくらでも手に入れることができますが、逆に働かなければ食事さえまともにとることはできなくなります。そして、働くことによって人は向上することができますのです。

「分度」

自分のおかれた状況や立場をわきまえ、それぞれにふさわしい生活を行うことが大切です。また、収入に応じた一定の基準（分度）を決めて、その範囲内で生活することが必要です。

「推譲」

将来に向けて、生活の中で余ったお金を家族や子孫のために貯めておいたり（自譲）、また、他人や社会のために譲ったり（他譲）することを推譲といいます。

「一元融合」



すべてのものは互いに働き合い、一体となって結果が出るという教えです。たとえば、植物が育つには、水・温度・土・養分・炭酸ガスなどいろいろなものが融合し合い一つになって育ちます。どれも大切なのです。

つまり、尊徳は「何事にも一人でなく力を合わせて行動すること」の大切さを教えているのです。実際に相馬地方（中村藩）では、この教えをもとに農民だけでなく領主にも分度に見合った生活をすることを求めました。



一元融合額  
(金房小学校所蔵)

推譲と報徳金

報徳仕法を開始する準備金を報徳金といいます。

この報徳金は推譲により集まったお金です。